

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備			事業番号	86	事業名	県単道路改築					
市町村名	松本市		ふりがな 箇所名	(主) 奈川野麦高根線 <small>ながわのおきななかおきな</small>			かみやうえ 神谷上	事業年度 (完了年度は見込み)	H23 年度 ~		H27 年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路拡幅工 L=240m W=5.5(7.0)m						H22年度末事業進捗率	0%					
	H23年度以降実施内容	同上						本工事費等ベース	0%					
	H23年度実施内容	用地測量、用地補償 1式						用地補償費ベース	0%					
	事業費計(千円)	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残				
	財源内訳	国庫支出金	100,000		0		0		5,000		100,000			
	その他													
	県債	90,000		0		0		4,500		90,000				
	一般財源	10,000		0		0		500		10,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等				評価				部		政策評価課		
										ランク	評点	ランク	評点	
	必要性 (30)	計画交通量	4,000台/日以上		1,500台以上~4,000台/日未満		1,500台未満				0		0	
		代替道路	唯一の道路である		代替となる道路がある						5		5	
		ネットワーク (道路網)	バス路線である		駅やICなどに通じるまたは役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線		A及びBに該当しない				5		5	
			ボトルネック箇所		ボトルネック箇所でない						B	4	B	4
		観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない								2		2
		各事業特有の必要性(安全の確保)		4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)		4.0m以上5.5m未満(幅員)		5.5m以上(幅員)				4		4
		歩道未整備区間に歩道を設置		歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し						0		0
		他事業との関連		河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施								0		0
	小計										20		20	
	重要性 (10)	設計上の環境配慮	環境配慮がされ確実性が高い		環境配慮がされているが確実性が低い		環境配慮をしていない				A	3	A	3
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(2個以上)		緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(1個以上)		特別な位置づけはない				5		5	
		小計									8		8	
	効率性 (20)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上		B/C 1.0~1.5未満		B/C 1.0未満				3		3	
		事業効果の早期発現	事業年数 3年以内		事業年数 4年~5年以内		事業年数 6年以上				B	5	B	5
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		コスト縮減はしていない				5		5	
	小計									13		13		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる		交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない				A	10	A	10
		各事業特有の緊急性(医療・福祉・教育)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)		医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に係らない道路				6		6	
小計										16		16		
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い		市町村からの要望		特に要望がない				3		3		
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知		関係者中心に周知		特に周知していない				B	3	B	3	
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加		住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない				4		4		
	小計									10		10		
費用対効果(B/C)		1.38		評価の合計						B	67	B	67	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	松本市では野麦峠周辺をヒストリーゾーンとして歴史的な自然回廊と位置づけており、国と市が一体となった地域活性化事業として野麦床固郡を重点事業として整備してきた。現道幅員は4~5mと狭く、歩行者の安全確保と交通の円滑化のために整備が必要とされている。												
	地域からの要望経緯	観光道路であるためバスと歩行者のすれ違いの際に危険な状態となる。沿道生活の安全性を高め安心して暮らができるように、市(特に神谷区)から改良を望む強い要望がある。												
	事業説明等の経緯	隣接工区改良時にH19.2およびH19.11.1に説明会を実施。多くの住民から早期の改良が望まれている。												
	環境・景観への配慮項目	極力現道を利用し、構造物を少なくするよう検討したい。												
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし												
特記事項	奈川支所と連携し、住民の意見を聞きながら計画策定していきたい。													
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他					
部意見	未改良区間として中抜けで残っている区間であり、地元要望が強く、福祉施設や保育園等の公共施設もあることから、通行者、歩行者の安全を確保する必要があることから、H23年度より事業化したい。				政策評価課		意見		重要性、緊急性が認められる。					